

# 伸びる交通網・消える鉄路

北陸を縦貫する北国街道のうち金沢

〜関ヶ原が大正八年（一九一九）

「国道二二号」となり、更に新潟市〜京都市が昭和二十七年（一九五二）「一級国道八号」となって北陸の幹線道路として永年利用されてきた。昭和四十年「一般国道八号」と改称した。車社会への変革に伴い「一般国道八号」が小松市街地を迂回して新しく完成したのは昭和三十一年五月であったが、通行量の増加に対処して更にバイパス道路が建設された。

川北町橋地内で手取川を渡った「金沢西バイパス」は昭和五十六年十二月小松市高堂町に入り能美市大長野町で「一般国道八号」に接続した。

小松市内の現在の道路網



「小松バイパス」は昭和六十一年十

一月に小松市八幡・東山間の供用開始

国土地理院発行5万分の1地形図(小松、平成9年・大聖寺、同2年)を使用

したのを皮切りに建設が進み、平成十五年（二〇〇三）三月に能美市大長野町から加賀市箱宮町までの全区間が供用を開始した。

北陸自動車道は平成九年十一月新潟市から米原市に至る四七六・五キロメートルが全線開通した。

全区間のうち最初に供用したのは昭和四十七年の小松IC～金沢西IC間二・二キロメートルで、翌年の昭和四十八年に丸岡IC～小松IC間三八・九キロメートルが供用となった。

北陸鉄道粟津線は明治四十年（一九〇七）、粟津温泉湯治客輸送目的で馬車鉄道を敷設して国鉄北陸線粟津停車場から粟津温泉までの旅客輸送に務めた。

大正三年（一九一四）温泉電軌の電車が山代温泉から粟津温泉まで開業し、大正五年粟津温泉から北陸線粟津停車場まで開業した。昭和三十七年（一九六二）十一月二十二日を以って北陸線粟津駅から北陸鉄道河南線宇和野駅に至る全区間を廃業した。

小松市内の新旧の鉄道網



国土地理院発行20万分の1地形図（金沢、昭和34年）を使用

昭和四十六年北陸線動橋駅、大聖寺駅、山代温泉、山中温泉を結んでいた河南線、山中線の電車が廃止された。

尾小屋鉄道は大正八年（一九一九）、尾小屋鉱山の旅客、資材運搬目的で軽便鉄道を敷設した。鉱山廃業後も地元の交通機関として営業を続けたが昭和五十二年（一九七七）三月十九日廃業した。

北陸鉄道小松線は明治四十年（一九

〇七）、遊泉寺銅山の鉱石搬出用の軽便鉄道を敷設し、閉山後の昭和四年（一九二九）から白山電気鉄道（昭和十二年小松電気鉄道と改称）として小松～遊泉寺間の旅客輸送に当たった。昭和六十一年五月三十一日廃業した。

（天丸博雄）